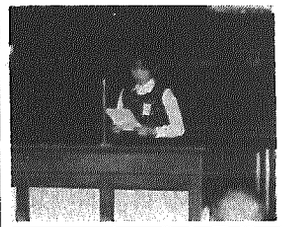
祖母の口ぐせ

岩室小学校六年二組
藤田里子



私の祖母は七十二才です。祖母は「年寄りは、われことといわね」と口ぐせのようによくいいます。私ははじめのころは、なにいってんだ、うるさいなくらいに思っていました。しかし今ではそれは本当だと思うようになりました。

ある冬の日に、私が遊びに行くと言ったら、「遊びにいかんで家にいれ、かぜひくろ、年寄りはわれこといわね、いうことを聞いてれ。」といいました。でも私は、そんなことを聞かないで遊びに行ってしまいました。そしたらその夜、のどがちょっとおかしくなり、祖母に「のどが痛くなった。」

また、私が夜おそくねて朝ねぼうすると、祖母は「夜はよねれば朝早く起きられんだっけ、はよねれや、年寄りはわれことといわねんだ。」といいました。私はあたりまえのことだと思っていましたが、またその次の日もおそくねて朝ねぼうしてしまいました。やっぱりテレビなんか見ていないで早くねればよかったと思いました。

それからこんなこともありました。私が寒くなって丸まっていると、祖母が「なんかきるんだ、かぜひく、年寄りはわれことといわねんだっけ、いうことを聞いてれ。」といいました。

祖母は七十二才で病気がちなので、もうほとんど仕事はできませんが、私達のやることを見ていて、その時に注意してくれたり、教えてくれたりしているのです。「うるさいな、古いなあと思うこともありますが、ふしぎに祖母のいうことは当っていますし、そのとおりになることが多いのです。私より六倍も長く生きてきたのですから、くろうしたことも、困ったことも、くふうしたことも、うれしかったことも、いろいろあったのでしょう。だからたくさんのことを知っているのだと思います。それに体の弱くなった祖母は、私達に話しを聞いてもらうのがとてもうれしい様子ですので、これからはあまり「うるさいな」なんて思わずによく話しを聞いてやろうと思います。

そして祖母の知っていることをできるだけたくさん教えてもらおうと思います。

敬老の日を迎えて思うこと

岩室中学校一年三組
丸山久美子

老人を見るたびに、山形に住んでいる祖父と祖母を思い出します。

以前は二人とも和納に住んでいたのですが、いろいろと訳があって山形で医者を開業している長女の所で現在住んでいます。医者の所にいれば体の具合が悪くなっても安心だというような訳もあったようです。

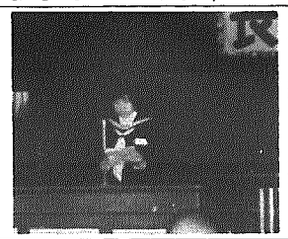
医学開発は進んでおり、年々じゅ命がのびてきています。その原因の一つとして医学開発も考えられます。

その他に老人の生きがい趣味を楽しむ老人が増えてきていることも上げられるのではないかと思われます。

私の祖父も以前はよく病気になって床につくことが多かったんですが、山形へ行ってからはうそのように元気になりました。というのも、むこうへ行ってから身の回りのことはすべて自分でするようになり、犬の散歩や買い物もするようになったからだと思います。

このように、老人の生きがいについても長寿の原因があるのだと思いました。

現在の岩室村になるまで数多くの老人の知恵や経験にもとづいて発展してきたと思います。道、橋、学校など、昔若かった人、つまり皆さんによって現在のようにすばらしくなったのですから私達は老人のありがたみを忘れてはならないと思っています。



私は、祖父と祖母の笑顔つまり老人の笑顔が大好きです。しかし、老人の笑顔など見たことのない人もいると思いますし、笑顔などの見せたことのない老人もいると思います。と同時になんの楽しみもなく、生きがいもなく生きている老人も多いのではないでしょうか。こんな老人に対しては優しいあたたかい手をさしのべてあげたいと思います。

私の祖父と祖母は、毎日の楽しみ、生きがいもあって幸せに暮らしています。私の勉強のこと、夏休みになれば私が遊びに行くので一ケ月も前から楽しみにして、手紙や電話で連絡したり大変なものです。

私の祖父と祖母のように孫をかわいがって生きがいとしたり、友達同士で趣味を楽しんだりしている老人は幸せだと思います。

しかし、そんな老人ばかりでなく、子供からじゃま者にされたりして自殺する老人が年々増していることを新聞で見ました。敬老の日のある限りそんな老人をひとりでもなくしたいのが私の願いです。

とにかく、私の祖父と祖母は日本一幸せであり、私も日本一幸せな孫だと思います。

村中の老人が幸せになって、孫や子供達から愛されたわれるおじいちゃん、おばあちゃんになってほしいと思います。

私の大好きなおじいちゃん、おばあちゃん、それと私のような幸せな孫がいられるおじいちゃん、おばあちゃん、ずっと長生きしてください。

これからも天からさずかった生命を大切にし、岩室村でなくてはならない長老となってますます発展すると思われる私達の村を静かに見守ってください。

いつまでもお元気でお暮らしくださることをお祈りして終りとします。

敬老の日にあたって

岩中二年三組
本井雅枝

「いちいち、うるさいてー」「あう、なーとなんてロきかん方がいい！」これが、祖母のロゲンカの調子である。この時ほど、祖母をじゃまあつかいしたことはありません。

家には、今年で六十五才になる祖母が一人います、気ばかりとっても若くて、時々、私とロゲンカをするのです。その時の祖母はとっても若いんです。気が若いとゆうことは長寿のひけつなんでしょうか？

げんに岩室村、いえ、日本の長寿は、伸びています。この間テレビで日本の女性の最高長寿の百十才の方を見ました"すごいなあ"とただ感心するばかりでした祖母に「すごいねえ、百十才だってさ、おめえも百十才まで生きれの」といったら、「いゃあ、そんがにも生きられんが」と笑って答えるだけでした。お年よりならもっと生きていたい！まだまだ生きられるがと思ってるはずなのに、どうして遠りょがちに答えるんだろう？、私たちだれもがおばあさんたちに長生きしてもらいたいんです、百才になっても二百才になっても……

今、私たちの住んでいる村、いえ、家、私たちが通っている道、いつも渡るこの橋など、みんな今のおじいさんおばあさんがたの手によって作られたものです。これを作るのにどれだけ苦労したことか……昔は、この道はジャリ道だったし村も今ほどに発展していなかったことでしょう。それを考えると、今までなんの感謝もせずにただ、あたりまえだというような顔していた私たちは、ここであらたまってお礼をいわなければいけないと思います。

『ありがとうございました』これからの岩室村をせおって行くのは私たちです。おじいさん、おばあさん方が築いてくれた以上にすばらしいものを私たちの手で築きあげていこうと思います。

私の祖母は、六十五才なのに朝早く山に出かけて、畑仕事をし、帰ってくるとタバコも吸うのです。母の仕事に出かけます、そしておばさんたちは、祖母の体を心配して「やめれの」と注意しますが、いっこうにききめがないようです。私も母たちと同じ意見です。タバコを吸って肺ガンになったり、朝仕事などで体をこわしたらもともとありません。それなのにやめてくれません。きっとタバコを吸うのが祖母の楽しみなのかもしれません、こんな田舎だからどこかへ、しばいなどを見に行くなんてできないから……それとどんな人でも孫の成長ほど楽しみなものはないでしょう。

私のいとこに赤ちゃんがいます。その赤ちゃんをあやす時の祖母の顔、とってもうれしそうです。そんな時の祖母の顔を見ていると私の心までなんだかなごんでくるようです。でも、こんな私よりも、もっと心配してくれるのが釧路のおじいさんです、電話をよこすたんびに「長生きしてもらわんと困るっけ、何か食いたいもんはないか？」と必ず聞えてくれます。短い言葉でもとっても心がよくわかることばではないでしょうか、私は表面で「長生きしてネ！」とはあんまりいいません、でも、年おいた人生の中で、「ああ、生きてよかったなあ」とどのおじいさんも、どのおばあさんもがいってくれるようにどんなささいなことでも少しは役にたとうと、今までよりももっとおじいさん、おばあさん方を大切にしていただきたいと思います。

どうか、これから先十年でも二十年でも、もっともっと多く長生きしてください。